

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691200055		
法人名	医療法人栄仁会		
事業所名	栄仁会グループホームやまぶきの郷(Bユニット)		
所在地	宇治市菟道段の上20-1		
自己評価作成日	2012.10.14	評価結果市町村受理日	平成25年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2691200055-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活支援のボランティアが定着してきた。地域に対しても、やまぶき祭りにおいて、出し物をしてはどうかや、8月の集中豪雨で災害ボランティアに行っただろうかなど、職員から声があがってくるようになった。就労支援の受け入れをし、実習生の支援をするなど、職員の中にも地域の一員であるという意識が根付いてきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲げ、職員が迷った時、常に立ち戻れる様、意識の浸透が根付いている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	8月の宇治市集中豪雨で床上浸水の被害が菟道地区で発生した。その時、やまぶきの郷からも土石流撤去ボランティアとして、参加した。あさひ保育園と年8回の交流プログラムを組み、実践している。やまぶき祭では宇治作業所のパン・小物販売も実現した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学区福祉講演の講師依頼を受け、研修を行った。徘徊サポート訓練を行い、地域ぐるみで認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を行い、利用者・家族・自治会長・第三者委員・地域包括支援センター職員の参加を得ている。グループホームと小規模多機能の活動状況、・事故報告・利用状況の報告を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員派遣事業を引き続きうけている。やまぶきの郷の担当者が代わったことにより、新たな着眼点でご指導頂き、必ず終わりに総括をしている。報告書が届くとスタッフ会議で振り返りをし、会議録に記録している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサーの使い方の見直しを行い、必要以上にセンサーを使っていたこと、又、センサーの誤った使い方に気づくことができた。センサーに頼らない方法をまず見つけるケアを研修を含めて再確認した。研修内容として身体拘束禁止の具体的な行為・身体拘束がもたらす多くの弊害・身体拘束を回避する工夫、を押さえて研修を行った。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修項目に虐待を挙げ、研修内容として、虐待とはどのようなものがあるか・虐待を発見するサイン・発見した時の通報先を押さえて全職員に周知徹底した。		

グループホームやまぶきの郷(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	栄仁会外部研修委員をグループホームから出し、研修参加への促進、又、内部研修も行い職員全体の理解を深めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	平成24年度、介護保険法改正に伴い、再契約も取り直し、家族より内容の説明の理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アウトカム評価を実施し、その評価ひとつひとつについて話し合いを行い、書面にて家族に通知している。又、施設内にも掲示している。今回は回収率が悪く、御教示頂けることが少なかったことから、来年度の回収率をあげるための話し合いを行う必要がある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回はスタッフ会議を行い、日々の小さな意見やアイデアも話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に管理者・施設長も面接を行うようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修に外部研修受講後、3か月の実践継続を掲げているが、現場で活かされていなのが現状である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会のコスト削減の研修に参加した。グループワークを通じて他グループホーム職員と意見交換でき、施設での取り組みの新たなアイデア・実践につながった。		

グループホームやまぶきの郷(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時、家族に基本シートを記入して頂いているが、入所後さらに本人・家族・職員で話を詰め、空欄のないように詳細な情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のニーズ・心配事・希望をしっかりと聞き、やまぶきの郷において、安心した毎日を過ごせるよう、話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	運営規程に地域の方優先をうたっているため、エリア外の方は他のサービスを紹介している。やまぶきの郷小規模多機能利用者がグループホームへの入所の流れになることが可能性として多いことも説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や洗濯物たたみなど出来るだけ手伝って頂き、ともに生活しているという意識を持って頂くよう、心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と利用者がみずいらずで外食する機会を設定したり、やまぶきの郷でのバーベキューに準備段階から参加して頂いている。細かなことでも相談し、家族との連絡を密に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が以前通っていた理髪店を引き続き利用している。又、女学校時代の友人の訪問もある。2週間に1度自宅に帰って頂くなど昔の暮らしがそのまま継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係で得た情報を職員が共有し、利用者の個性を尊重できる関係であり続けられるよう、家族も話し合いに交えてその都度支援している。		

グループホームやまぶきの郷(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には次の生活を一番に考えるようにして退所後もそれぞれの機関への問い合わせを行っている。病院入院という退所が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式A～Dシートの見直しを半年に1回コンスタントにできている。家族と職員がシート見直し作成に協力し、家族が不参加な場合は、その都度電話連絡、面会時に情報収集している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートに新たな情報が家族との関わりの中で得られたら追加記入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	3か月に1回のモニタリングを24年度の目標に掲げているが、細かなモニタリングをし、その方の強みを活かしたケアプランとなるよう、見直しが必要である。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式シートを家族・本人・受け持ち・リーダー・ケアマネなどでその場で記入し、意見を出し合い皆で作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	専門用語・略語は使わず、家族のどなたが見てもわかる記録に努めている。D4シートの利用者・家族・職員の言葉、気づきやアイデアをかき分け、誰が見ても、その背景が分かる記録に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内において、レクボランティアが来た場合、小規模へ参加しに行ったり、施設内研修の内容の一部を小規模多機能を巻き込んだ研修内容にして実践を行った。		

グループホームやまぶきの郷(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	やまぶき祭を通し、宇治作業所よりぼけっとのパン販売が2週間に1回はじまるようになった。菟道地域8月の集中豪雨では民家にガレキ撤去ボランティアに参加した。消防団の一員として地域の掃除や避難誘導も行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	介護職員が診察内容・薬の効能などを学び、主治医・看護師とその都度相談し連携を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医も看護師もチームの一員とし、報告・連絡・相談をし、その都度指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	平成24年4月～9月まで入院なし。入院された時は治療後出来るだけ早く退院できるように、病院と連絡やカンファレンスを密にしている。		
33	(12)	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A～Dシートの見直しを行い、一人ひとりがいづ、ターミナルを迎えてもいように、情報の収集に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、職員は研修を受け、有事に備えている。(マニュアル完備)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に1回避難訓練を行っている。地域の消防団、菟道地域の自治会、家族にも水消火器を使った訓練に参加して頂いた。消防に関するアンケートをやまぶきの郷全職員で取り組み、その集計を今後の訓練に活かそうとしている。(消防署にもアンケート集計結果報告する)		

グループホームやまぶきの郷(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時、職員の声が大きく、ケアの内容が丸聞こえになり配慮に欠けている時がある。倫理・接遇などの研修を通じて職員の振り返りを設けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いくつかの選択肢を用意し、利用者もしくは家族の意向に従っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ささいな事でも本人の意思を確認している。例えば、おやつは何がいいか、レクレーションに参加するか、テレビは何チャンネルがいいかなど。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類、装飾品などのショッピングを共にし好きな物を選んで身に着けて頂いている。いつもよりおしゃれをされている時は、ひと声かけ、おしゃれを楽しみたい気持ちに共感するよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の良い時期にバーベキューを家族も含めて皆で楽しんだ。季節や行事に合わせて献立の意向を聞き、手作りで温かい食事を提供している。嗜好品をプランに挙げ、入所までの生活の継続をして頂いている。テーブル拭きや下ごしらえ、味見などをして頂き職員と一緒に食事作りをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じてセンター方式シートのD3シートの活用により、水分確認に努めている。又、介護食の研修・試食を通してその人に合わせた食事形態をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科に同席し、口腔ケアの仕方を学び、伝達研修を行い実践している。一人ひとりに合った口腔ケア用品を購入し、ケアに取り入れている。		

グループホームやまぶきの郷(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	D3シートの活用により、一人ひとりの排泄パターンをつかむ努力をしている。その情報をもとに個別のトイレ誘導を実践している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事や、乳製品、オリゴ糖など便通に「よい食品を取り入れ、なるべく自然な排便があるように努めている。又、ホットバックを利用し腹部を温めることもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、アロマを時々利用し入浴を楽しんで頂ける工夫をしている	入浴の曜日は決めているが本人の状態や希望にあわせて入浴して頂いている。ゆず、アロマを時々利用し入浴を楽しんで頂ける工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのこれまでの生活スタイルを大切に、好きなテレビを楽しんだりお茶を飲んだり、心地よい睡眠が得られるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受け持ちが利用者の服薬内容を確認し、効果や作用などを再確認している。往診時には受け持ちがなるべく立会い積極的な相談、説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	B3シートの活用により、馴染みの暮らしを継続できるように支援している。例えば、食後のコーヒーや好きな音楽など個々の習慣を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	住み慣れた地域の散髪屋、美容室に行ったり買い物で好きな物を買って頂いたり家族の協力を得ながら外出支援に努めている。		

グループホームやまぶきの郷(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望でお小遣いを持っておられる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時は事務所の電話を利用しかけて頂いている。また、居室に電話をひいておられる方は自由に掛けておられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭でハーブを栽培しおやつタイムにハーブティーを飲んだり、料理に使用している。月2回の生け花ボランティアにより四季折々の生け花を楽しんでいる。季節を感じられる飾り付けも工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外のベンチでおやつを食べたり一人になれる時間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ使い慣れたものや思い出の品を飾り、居心地の良い空間作りに努めている。ベッドより布団で寝る習慣がある方はベッドを外し、低床マットで休んで頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴槽において安全な出入りが出来るよう浴槽すべり止めマットを利用したり浴槽用座椅子を使用し、入浴中の保安に努めている。		